

生きる上で

天童市立第三中学校 一年 笹原 健汰

僕は小学六年生のころ、生きる価値について深く考えました。その時僕は小耳症という病になっていました。六千人に一人の病気です。僕はこれがきっかけでいじめを受けていました。僕をいじめる人の横を通ると、このような声が聞こえてきます。

「耳なし」

相手は僕より少し年下で、僕がやり返したりすれば僕が加害者になるかもしれないと思い、何もすることができませんでした。

一ヶ月くらい後になり、僕は「生きる意味ってなんだろう」と、そう呟きました。「ただただいじめられて、いいことなんて何もない」とそう思ったので、僕は先生に相談しようと思いましたが。でも相談するには勇気が必要でした。そして結局話すことができませんでした。

さらに一ヶ月ほどたち、やはり嫌がらせを受けている人が、先生に話していました。それを見て僕も先生に話しました。するといじめる人を呼んでくれて、「もういじめをしないでください」と、そうきっぱりと言いました。そしていじめはなくなりました。これでスッキリすると思いましたが。それからしばらくの間考えたことがありました。もし僕がもっと早く先生に言っていれば、いじめられている人を減らすことができ、既にいじめられている人たちのいじめもなくなったのではないか。そう思い、少し後悔しました。

しかし、いじめられていたからこそ、今の僕がいます。いじめにあっていなければ、このようなことは考えませんでした。僕はいじめを通して、様々なことを学びました。今の僕なら、いじめられているとわかった時に先生や親、友達に話ができると思います。

「SEKAI NO OWARI」さんがつくった「RPG」という曲があります。この曲には「怖くても大丈夫。僕らはもう一人じゃない」という歌詞があります。これには僕たち、私たちは一人じゃない。親や友達、親友など、様々な人たちが味方であり、恐れることなんてない。このような意味が込められていると僕は思います。僕はこの曲を聴いて勇気をもらいました。

もしいじめられて、「つらい」「苦しい」「死にたい」「生きる価値なんてない」そう思った時にこの曲を聴いてみてほしいです。きっと、勇気をもらい希望も生まれてくると思います。

そしていじめられている人には、勇気を出して周りの人たちに相談してみてくださいと言いたいです。そうすればきっと小さいことからでも支えてくれます。生きる希望を捨てないでほしいです。そうすればきっと友達や親友、親や先生などが気づき、寄り添い、助けられます。もしあなたが死んでしまったら、どれほどの人が悲しむか考えてみてほしいのです。そして絶対に生きる希望を捨てないでほしいのです。

僕たちは不幸になるために生まれてきたわけではありません。幸せに、楽しく過ごすために生まれてきたのです。だからこそ、生まれてきたすべての人に「どうか命を大切にしてください。簡単に命を捨てないでください。」と言いたいです。

僕はこのようなことがあってから、いじめを見過ごすことなく止める勇気をもらえました。人々は支え合いながら生きています。

僕は、心の輪とは人と人とのつながりや絆のことだと思っています。差別など人を見下すようなことも、心の輪をつくることにつながると思っています。

障害のある人となない人が平等に暮らせる世界にするために、僕はまず小さな差別をなくすところから始めるべきだと思います。だからこそ、もし周りでいじめられている人がいたら助けませんか。たとえ小さなことからでも。